

企画名： まつもと子ども留学継続拡大事業

団体名： まつもと子ども留学基金

## 1. 報告要旨

当団体は H26 年 4 月から福島県の子どもを対象に、過疎の進む松本市、四賀地区で民家を借り、子ども留学事業を行ってきました。市、教育委員会、地域住民の理解と協力のもと、8 名の女子児童生徒を受け入れスタート、H27 年度からは男子中学生 2 名を松本市内の個人宅でホームステイとして受け入れていただき、そのご家族と共に当団体のスタッフが支援を行ってきました。当団体の設立当初からアクト・ビヨンド・トラストの助成をいただき、施設の整備の他、心身ケアプログラム、学習支援、広報宣伝、保養事業に対して助成をいただき、事業を継続することができました。これまでに寮生 6 名が寮を巣立ち、市内や福島県内高校で元気に過ごしています。

H29 年度は「新高校生 2 名と受験生 3 名の留学支援」「2 組の移住親子の相談支援」「通年自由保養」「新規留学生募集」を取り組んできました。「留学生支援」については、全員が大きな節目の年でした。留学生は、学習、進路選択の問題、新生活の友人関係などの問題を抱え、専門家による心身のケアアセスメントと助言を支援に役立て、学校関係者や親御さんと連携を深め、組織的に支援を進めました。

「通年自由保養」（見学会含む）では参加者は 21 世帯 72 名参加しました。参加した親御さん達の多くが「安心して放射能の事が話せる」と汚染地域で暮らすストレスを語りました。福島県以外の参加もありました。原発事故被災による心身のリフレッシュの質的なニーズの手ごたえを感じます。

4 月から四賀地区に移住した 2 組の親子は、寮との距離も近く、困った時は当団体スタッフが相談にのりました。寮の仕事をお願いしたり、行事を一緒に行ったりと寮生との交流も深まり、良い支え合いができました。

「留学生募集企画」では保養相談会での勧誘、新聞広告、ポスター配布、HP の更新などを行いました。ポスター（[HP 参照](#)）や新聞広告による問い合わせはこれまでのところ無く、保養相談会から 5 世帯の現地見学者が出ました。3 家族は留学を検討して参加しましたが、親子の合意ができず留学にはいたりませんでした。今後も見学にきた家族には情報を提供して繋がっていきたいと思います。

ニュースレターは各 2,000 部を 2 回発行しました。正、賛助会員 189 名、8 団体ほか、支援者へ毎回合計 864 通発送しました。学校、行政、地域の方々へ手渡し、報告と周知に努めました。

## 2. 成果物

1. 留学生募集広告『福島民友』『福島民報』に掲載（2017.9.9）
2. 留学生募集ポスター
3. ニュースレター 8 号（2017.8）、9 号（2018.3）
4. 2017 年度 見学会しおり
5. 「原発事故避難の子どもたち支援 歌手うえかね健さん」『市民タイムス』（2017.4.25）